

講義コード	513135003
講義名	体育II EF
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科（短大）
講義開講時期	後期
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・1～2年
必須/選択	必修

担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	藤村 透子	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

体育Iの単位取得後に受講すること。

授業の概要
大型遊具（マット、とび箱）や小型遊具（フープ、ボールなど）の特性を理解し、運動遊びの実践方法、安全性を考慮した援助方法について学ぶ。

授業の方法
①プレゼンテーションの方法
授業では、配布資料や板書を活用する。
②授業形態
実技形式およびグループワークを行う。
③アクティブラーニング
手遊び、運動遊び、グループワークの発表を実施する。
④課題に対するフィードバックの方法
提出物の内容を確認し、コメントを記入して返却する。

授業の到達目標及びテーマ

子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための運動技能を身につける。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「5.音楽・図画工作・体育の技術と表現を身につけ、乳幼児に指導できる。」と「7.他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。」を達成するための科目である。

授業計画表

回	項目	内容
第1回	ガイダンス	グループ分け
第2回	小型遊具を使った運動遊び（1）	基本的な運動の実践、グループ学習
第3回	小型遊具を使った運動遊び（2）	発表（1～3グループ）

第4回	小型遊具を使った運動遊び（3）	発表（4～6グループ）
第5回	小型遊具を使った運動遊び（4）	発表（7～8グループ）、まとめ
第6回	運動技能テスト（1）	フープ：回す、転がす、跳ぶ
第7回	運動技能テスト（2）	フープ：回す、転がす、跳ぶ
第8回	大型遊具を使った運動遊び（1）	基本的な運動の実践、グループ学習
第9回	大型遊具を使った運動遊び（2）	発表（1～3グループ）
第10回	大型遊具を使った運動遊び（3）	発表（4～6グループ）
第11回	大型遊具を使った運動遊び（4）	発表（7～8グループ）、まとめ
第12回	遊具を使わない運動遊び（1）	グループ学習
第13回	遊具を使わない運動遊び（2）	基本的な運動の実践
第14回	運動技能テスト（3）	ボール：投げる、つく
第15回	運動技能テスト（4）	ボール：投げる、つく

授業時間外の学修

授業の最初に、手遊びの発表を行う。担当者は事前に打ち合わせをし、発表練習をして授業に臨むこと。（予習課題）
事前にシラバスを読み、各種目の遊びについて調べておくこと。（予習課題）
毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませ、手遊びノートをまとめておくこと。
予習課題に10分、復習課題に35分かかると想定される。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
	◎	◎	

ルーブリック

評価項目	優秀（excellent）	平均（average）	途上（developing）	未達（unachieved）
運動遊びの専門的な知識	保育者として専門的な知識を持ち、子どもの健全な育ちを支援できる	保育者として専門的な知識を持っている	保育者として専門的な知識を学習したが、不十分である	保育者としての専門的な知識がほぼ修得できていない
運動遊びの専門的な技能	保育者として専門的な技能を持ち、子どもの健全な育ちを支援できる	保育者として専門的な技能を持っている	保育者として専門的な技能を学習したが、不十分である	保育者としての専門的な技能がほぼ修得できていない
運動遊びの指導力	保育者として、状況に応じた運動遊び等の保育実践ができる	保育者として運動遊び等の保育実践ができる	運動遊び等の保育実践に課題があり、課題解決への見通しがある	運動遊び等の保育実践に課題があり、課題解決への見通しが無い

成績評価法（表形式）

--	--	--

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	30%	実技試験
成果発表		
授業への貢献度	40%	グループ発表、授業態度
レポート	30%	提出物（手遊びノート）
その他		
課題へのフィードバック方法		
定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する
ICTを活用した双方向型授業の内容		
チャット メール等の活用		
アクティブラーニングの割合		
総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである		
アクティブラーニングの内容		
書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
プレゼンテーション	PBL(課題解決型授業)	
教科書		
なし。必要に応じて資料を配付する。		
参考書		
『幼児期運動指針実践ガイド』日本発育発達学会（杏林書院） 『体育あそび120』岩崎洋子（チャイルド本社）		
SDGsとの関連		
4. 質の高い教育をみんなに		
特記事項等		
①科目のナンバリング STE1204		
②オンライン授業の実施方法 Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。		
③その他の特記事項		

短大指定の体育着およびシューズを着用すること。（スカート・ジーンズ・素足等での受講は安全上認めない）

授業が始まるまでに、アクセサリ類（指輪、ネックレス、ピアス等）は必ず外しておくこと。また、髪が長い学生は一つにまとめること。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2 階 2 2 3 研究室

第 2 体育館 2 階 体育教員室

2022年度後期は、月・水が出校日です。研究室または体育教員室を訪ねてください。

電話番号

028－667－7111（代）

授業用E-mail

fujimura@sakushin-u.ac.jp